

週日の説教

金 大烈 神父 2010年3月3日(水)

《自分を変える(相手のせいにしない)》

おはようございます

今日の教えに 『神よ、わたしはあなたにより頼む。

「あなたこそわたしの神。」

あなたの手にわたしの生涯をゆだねる。

いつくしみによって救ってください。』(詩篇 31・15-17)

とありますが、このような気持ちでなかったら、私達は正しく信仰の道を歩めません。皆様が、より豊かな対象である神様に、全てを賭けられる信仰でなければいけないと思います。

さあ、ある王が居ました。その王はあらゆる権力を持ち、全ての人々を治めた人です。その王は病的にピンク色が、桃色が好きでした。何でもピンク色が見られる、見える所に行きたいと思う気持ちでした。ですから王はその家臣に「できるだけ私の目に入る物を全部ピンク色にしてほしい。」と命じたのです。

しょうがなく、全国民があらゆるものをピンク色にしたわけです。しかし、どうしても出来ない所がありました。それは青空でした。「どうすれば空をピンク色に塗れるか。」家臣達も王もあきらめるしかなくて、苛立つ気持ちになったわけです。そんな時、ある賢明な従者が前に進み出て「これを使ってみて下さい。」と言って、ピンク色のメガネを差し出しました。そのピンク色のメガネをかけて空をみたら青空がピンク色になりました。面白い話でしょう。

四旬節に入ると悪魔はよくいたずらをします。普通には全然心痛めたりしないような事に対しても、何故か敏感になってしまいます。そして、すぐに腹を立てたり、なんでもないちょっとしたことで誘惑に負けてしまいます。それは悪魔の役割です。特に四旬節は“恵みあふれる期間”と言われるのは、そのくらい悪魔が活発に動いているからです。私達が悪魔の誘惑に負けると言えば、大体が自分ではない他人に対する心でしょう。「あの人は何となく嫌だ。」とか、「あの人が普通に使う言葉だけど、何故こんなに深刻に自分の心を刺すのか。」そして、その相手を本当に嫌いになってしまうわけです。それが悪魔の一番得意ないたずらです。できるだけ人を憎むように、できるだけ一つになれないようにすることが、悪魔のおもな手業じゃないかと思います

皆様、大体私達が憎むその理由は、相手の色々な振る舞い、態度、物の言い方、やり方をみて腹が立つことですよね。そうでしょう。それが重なって段々「ああ、あのやつはしょうがないから避けたほうがいい。」そう思って、その人が現れたら何となく気持ち悪くなって、汚い気持ちになって避けてしまう。そういう場合が皆様の一般的な体験じゃないかと思います。相手が変わってほしいと望んでも、相手は絶対に変わってはくれません。これが人生だと思います。人との関わりだと思います。私

達がピンク色に全部変えたい気持ちになっても、相手はピンク色になってはくれません。本当に相手がピンク色になってほしいという願いがあれば、自分の目を変えて下さい。そうでなければ、私達はいつも憎しみに縛られて平安な心を失ってしまいます。

四旬節に入って色々な誘惑にあっても、「もし私がおの人を見る目を変えたら、もし私がおの人の立場に立ってみたら」と考えれば、どうか理解の幅が広がるのではないのでしょうか。

皆様、私達が平安な心を失ってしまう理由は、憎しみです。相手です。その相手のために、すでに、豊かにあふれるくらい与えられた平安な心を保つことが出来なくなってしまうのです。全ての問題は“自分の心の中にある”ことを認めて下さい。“相手のせいにしなさい”で下さい。本当です。100% “自分の心の問題”です。自分の状態が悪かった場合、自分の中に入って下さい。私は先週の日曜日に「心を見る鏡が必要だ」と申し上げました。そして、“その鏡は祈りだ”と言いましたね。やっぱり“祈りの中で悟る”ことだと思います。

この四旬節、よりよい復活祭を体験するために、どこかに否定的な心がある時、否定的な思いが起きて来る時に、その原因、その問題点は“自分の中にある”と強く考えてそのなかで解決しようとして下さい。他人はいつも他人です。他人のやり方はいつもそう思う通りです。結局、“自分が変わらなければならないこと”、目を、見る目を変えなくてはならないことを、もう一度意識しましょう。

皆様、ラテン語のミサに与ったことがありますか？ その昔は回心の祈りの時に自分の胸を叩いて「メア库尔パ、メア库尔パ、メア マクシマ 库尔パ(Mea Culpa, Mea Culpa, Mea Maxima Culpa:自分の罪です、自分の罪です、自分の大きい罪です。)」と罪の告白をしたものです。実際自分のせいにするほうが、相手のせいにするより楽です。他人のせいにするとも100%自分の平安な心を失います。しかし、「これは自分のせいだ。」と思った時にはなんとなく平安な心になります。そのようにしながらも私達は、いつも平安と反対の道を歩んでしまう場合が結構あるわけです。

皆様「メア库尔パ、メア库尔パ」する心でいきましょう。

ありがとうございました。